

コミュニティ・スクールを核とした

周南市の「地域と“共に”ある学校」 通信

共に。
周南市

平29年度 第23号

平成29年12月12日発行

周南市教育委員会

学校教育課

地域で育てる英語への関心（英語の読み聞かせ）

鹿野小学校図書だよりから（平成29年10月号）

各学年の朝学習や読書の時間に鹿野地区在住の講師の方が英語絵本の読み聞かせをしてくださいました。楽しくわかりやすく読んでいただき、質問やクイズに答えながら子どもたちは一生懸命聞いていました。



写真は、左から1年生、3年生を対象にした英語の読み聞かせです。全学年を対象に行っていますが、時にはワークショップ的な活動も加え、子ども達が自然と英語に親しんでいくよう仕組みられています。

今後の外国語活動の小学校3年生から実施という流れを考慮し、地域の有用な人材を、どのように学校の教育活動に生かしていくか、人材の発掘と活用の目的がうまく結びついた実践です。

地域連携担当教員の立場を生かす

11月に県教育委員会主催の地域連携担当教員研修会がありました。今後、各学校が地域連携担当教員の役割の生かし方を工夫する必要があります。

さらに、地域連携担当者自身が校内での立場が明確になるよう努めていくことが大切です。

- 1 国、県、市が重視する、地域と共にある学校づくりの校内推進役として、施策の方向を理解する。
- 2 自分が研修したことを、同僚に伝える方法を考え、教職員間での理解の輪を広げる。
- 3 自分の強みや特長を生かして、自分としてのCSへの関わり方を工夫する。
- 4 日常において、地域の人とのつながりを大切にする学校としての取組を心がけ、実践する。

岐陽中学校の地域連携担当教諭は、情報機器の扱いを得意とすることから、地域連携活動の取組を紹介するDVDを作成しました。【写真DVDの一部】

自校区のCSを紹介する映像づくりを行いながら、作成者自身が、学校と地域のつながりを見る目、考え方を養っていくとともに、職員室内での共通の認識として理解を深めていく手段ともなると考えます。



教科書の目次から地域力の活用を考える

地域の方々と授業について話し合う機会に、教科書の目次を活用する方法があります。

写真左は、小学校3年生理科の教科書、右は小学校5、6年生の家庭科の教科書の目次ページです。



教科の目標や内容に沿って、その達成の充実を図るために行う学校と地域の連携・協働を考える上で、各教科の指導内容を把握するための共通資料として、教科書の目次を見ながら、学習内容・学習方法の話し合いをするのも有効と考えます。

教員として、どのような地域の専門家と授業を組み立てることが可能か、地域として、どのような人材がいるかを一つの土俵の上で検討し合うための材料として、目次が活用できます。